

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—待ったのは…—

NO. 18



あんずには3台のクルマがあります。毎日みんなの送迎に大活躍です。いちばん小さい軽自動車
が“ホップ”。リフト付きのワゴン車が“ステップ”。14人乗りの大きなワゴン車が“ジャンボ”
です。お母さん方に名前を付けていただき、すっかりお馴染みです。

先日、児童のクラスが、ジャンボに乗って園外に出かけました。いつも自家用車で来ている子
ども達のために、遠足前に一度乗っておこうという作戦も兼ねていました。いつもと違う流れだし、
乗ったことのないクルマ、それもちょっとデカいなあ。お家からあんずへの道中から、ジャンボに
乗ることや、行先について写真を見せたり話して聞かせるなど、クラスの職員とお母さんとの綿密
な計画が進んでいました。

「さあ、ジャンボに乗って公園に行こうね」と、ジャンボの入り口まで来たところで、やっぱり
その子は座り込んでしまいました。ちょうど私がその子の後ろにいたので、その場でほんの少し待つて
から抱き上げました。抱き上げたところでひと呼吸。お母さんには先にジャンボに乗ってもらいま
したが、すぐには後を追いませんでした。ほんの数秒待つて、クルマの中をしっかりと見せたあと、
まずは一歩近づきます。そこでまたひと息。背中を押されるような感覚を持ってもらいたくなかつ
たのでね。次に、クルマの中にその子の足がかかるくらいのところまで一歩。床にそっと足を降ろ
すと、立つ力が入っていくのがわかりました。“これは少しその気になっているな”と感じたので、
抱っこからゆっくり降ろし、自分で立ってもらいました。もう、その子の身体はクルマの中です。
そして、「おいで」と手を差し伸べるお母さんの下に自分から行くことができました。

要した時間はほぼ30秒。でもその30秒の間で3回待ちました。乗せられて行くのではなく、
自分から乗ってほしかった。もちろんお膳立てはしましたが、その子は自分から乗り込みました。
事前に教えてもらっていたこともあって、先への不安は大きくはなかったのかもしれませんが。私は
そこで見送りましたが、その後、車内で行先の公園の写真を見ながら、お気に入りの絵本も見なが
ら、少しずつ落ち着いて過ごすことができていたそうです。もちろん、公園も楽しめた一日でした。

『待つこと』『待たせること』『待たせられること』って、長い時間のイメージがあるかもしれま
せん。でもね、子ども達に必要な“待ち時間”は、ほんの少しの“間”であることが多いものです。
ほんのひと呼吸、ほんの数秒『待つ』ことで、その子が何を感じているのか、どうしようとしてい
るのかを察せられることもあります。(わからないことも多いですけどね)そして、いくつかの“間”
が組み合わさると、全体がゆったりと進んでいるように感じると思います。大人自身も、胸の高さ
にあった塊(かたまり)が下りていくのがわかります。余計な力が抜けてくるのかもしれませんが。
きっとお互いの表情も緩みます。

時間のある時にだけ、ちょっと意識してみてください。心に余裕があるときにだけ、ちょっと試
してみてください。子どもにやってほしいことの“かまえ作り”に役立つと思います。



信号待ちを長く感じているときって、きっと笑っていないと思います。どうせ、青になるまでは
待たなきゃいけないのですから、緩めてみませんか? 何かが見つかるかも?(H29. 11) K